

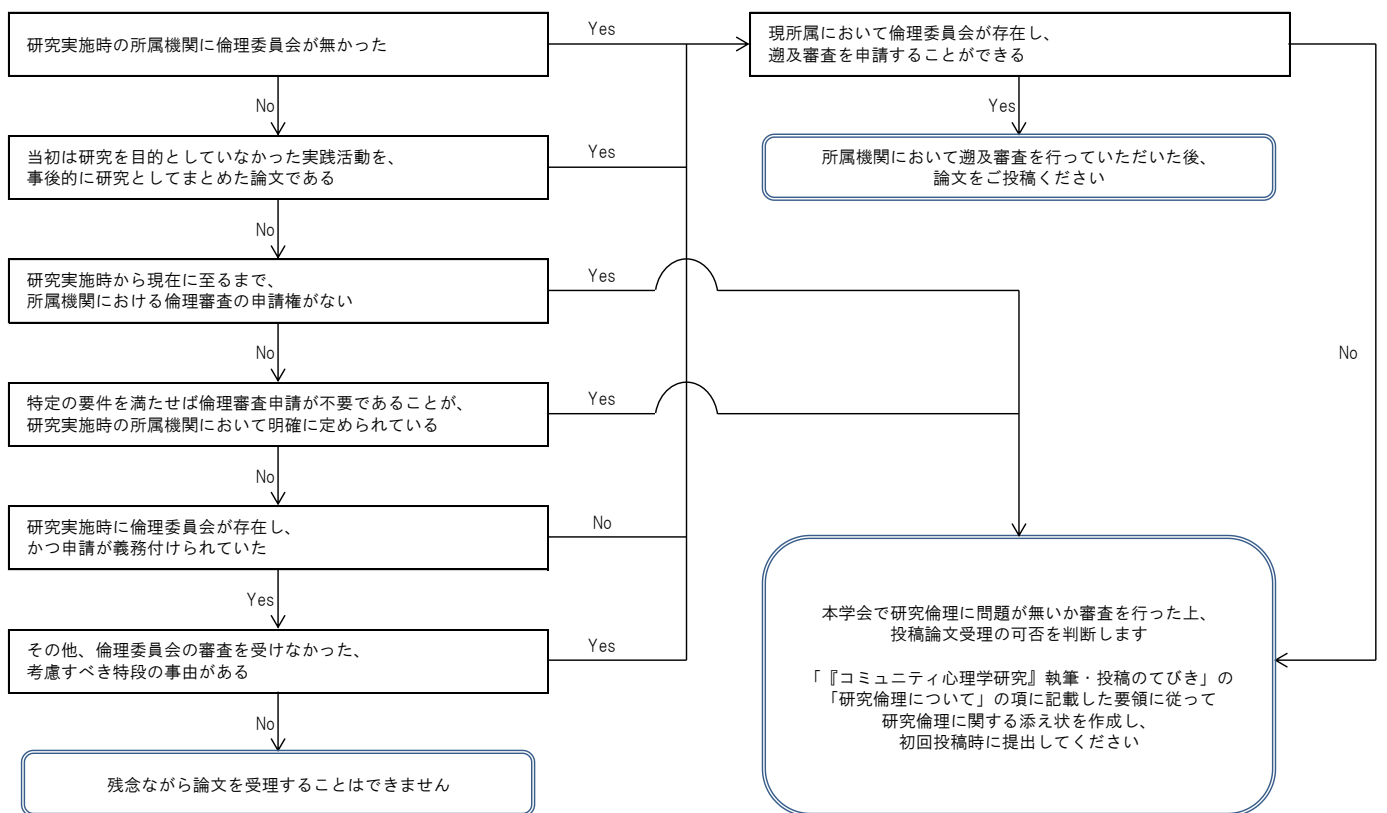
# 投稿論文に関わる研究の倫理審査のガイドライン（方針）

このガイドラインは日本コミュニティ心理学会倫理綱領に則って、論文投稿とその審査が行われる際に参照すべき事項についてまとめたものです。社会情勢の変化や学問分野の発展に応じて、随時加筆修正していくことを前提に作成しています。ガイドラインによっても明らかにならない事柄や想定外の事柄等に関しては、その都度学会編集委員会や理事会等で検討するものとします。

## 1) 投稿論文に関わる研究についての倫理審査

投稿論文に関わる研究計画は、投稿者が所属する機関内に設置されている倫理委員会等から承認を得て、承認された研究計画に従って研究を実施することが基本です。倫理委員会が存在しない、あるいは研究開始時に所属機関に倫理委員会がなかった会員が論文を投稿する際は、下記のフローチャートにしたがって、必要な対処を求めます。

やむを得ない事由によって倫理審査を受けることができなかった場合や、所属機関に倫理委員会に相当する期間が存在しない場合、学会で研究倫理に問題が無いか審査を行った上、投稿論文受理の可否を判断します。『『コミュニティ心理学研究』執筆・投稿のてびき』の「研究倫理について」の項に記載した要領に従って研究倫理に関する添え状を作成し、初回投稿時に提出してください。



コミュニティ心理学会 投稿論文に関する倫理審査チェックフローチャート

2) 投稿論文に関わる研究を学会で倫理審査する場合の主な観点

- ① 研究協力者あるいは参加者への心理的、社会的、身体的な危害を与えないこと、生活に混乱が起きないこと、調査時には個人情報保護すること、等について十分配慮できているか。
- ② 研究で得られたデータ（個人情報を含む）の適切な保管が明確に記載されているか。
- ③ 研究におけるインフォームドコンセントを得るための説明と同意に関しては主に下記の項目の実施を行っているか。
  1. 研究の目的、方法
  2. リスクの説明
  3. 利益や変化が起きる可能性
  4. 個人情報の保持とその限界
  5. 研究結果の公表方法
  6. 自由参加、罰則なしにいつでも参加を中止できること。
  7. 調査責任者、実施者の明記
  8. 利益相反関係の有無の明記
- ④ 学生、受講生、被支援対象者が研究に参加する場合には、以下の配慮を行っているか。
  1. 研究参加をすることに何らかの報酬がある場合や単位認定が条件となるならば、その説明責任。
  2. 研究参加を拒否した場合、学生、受講生、カウンセリング対象者に不利益が生じないようにする。
  3. 研究参加が自由意思によること。